第２回都道行文線の整備再開に向けた村民説明会
現地視察会　意見交換会　議事録

事務局　　総 務 課 長　渋谷　　正昭
建設水道課長　篠田　千鶴男
総務課長補佐　杉本　　重治
総　　務　　係　山下　　正裕

１．日　時　平成 26 年 11 月 24 日　午前 9 時から　午後 1 時 30 分から

２．会　場　村役場　本庁舎

３．参加者　午前の部　４名　　午後の部　４名

４．現地視察会行程　（＊は午前の部、〇は午後の部）
＊行文線（自衛隊前）～清瀬配水池下～村道釣浜線終点～奥村交流センター～二見港（ははじま丸側）
〇行文線（自衛隊前）～行文線～釣浜駐車場～奥村交流センター～大神山公園パノラマ展望台

５．意見交換会
＊午前の部
（参加者）　計画の前提が防災ハザードマップを前提に計画を考えているということですが、最近新たに土砂災害ハザードマップも配布されて、その直後に土砂災害警戒情報が発表され、その避難所が、奥村交流センターではなく地域福祉センターという一番低いところに設置されたということで、津波も土砂災害も台風も自然災害ですから、それらに対応した総合的な防災対策を改めて考え直してもらいたい。津波でも台風でも土砂災害でも安全な避難場所と言うのがない。それでは、過去の土砂災害の時には、北袋沢では民家に土砂が侵入したし、台風で避難している漁船（沖縄船）も３名亡くなっている。その時は、都道もあちこちで通行不能になったわけですが、そのような危険な箇所が、新たに整備した行文線にもあり、夜明道路にもあるということ。やはり、ここがいかなる災害でも、ルートを含めて安全な避難所であるということを、総合的な計画で作成してもらいたい。津波の場合はここ、土砂の場合はここということだと、不安で避難できない。今回、（土砂災害警戒情報発表時に）福祉センターへの避難者はゼロだったらしいですけど、その前の道路は雨水で冠水している。歩いている人は危険で行けない。土砂、津波を合わせた防災計画を見直しもらって、行文線のことを考えてもらいたい。

（事務局）土砂災害のことですが、大島や広島のことを受けて、国・都から今ある情報

を広報して、住民に知らせるよう指導があり、ハザードマップを配りました。お配りしたハザードマップは、図上の傾斜や地形等を見て書いてあるが、本格的な調査を（都が）２８、２９年で行い３０年にハザードマップを作成する予定です。大島も今年測量等を行ってハザードマップは来年度できる予定。ハザードマップができて、危険な箇所を避けて避難所、避難ルートを設定し避難計画を作成します。小笠原は現在、図上で設定した危険個所マップで、周知しています。本当は、津波の心配のない高台で、周りに山も抱えていない、台風・土砂災害の危険もない場所を見つけられればいいのですが、父島はぎりぎり小中学校がクリアできそうな状況で、母島は、あれだけ山が近く、低いところは津波が来て、どちらかが必ず被災するということなので、非常に苦労しています。津波と台風、土砂で（避難所を）変えなければいけないかなと考えています。土砂災害については、東京都が今後調査を行ったうえで、津波とすり合わせていくことは考えていきたい。今回、防災道路については、一義的には津波の対応ですが、具体的な構造や線形は村として案を出す段階ではありませんが、土砂災害に強い道路と言うのは一つの意見として、うかがっておきたいと思います。

（参加者）最近の土砂災害については、この前も早い時期に広報をまいてくれましたが、道路と土砂災害は切っても切れないことなので、土砂災害と防災道路を一緒に考えていくことはできないでしょうか。

（事務局）今村で行っているのは、道路の必要性についてもう一度皆さんのご意見を伺い、実際に東京都で道路再開の意思決定をしていただき、そのうえで詳細な設計をしますので、土砂災害等の基礎調査が終わった後になります。今、合意形成が終了したから来年から設計や工事が始まるという状況ではありません。そういう意味では、実際の工事は平成 30 年以降になりますので、土砂災害情報にも配慮したものになると考えています。

（参加者）十何年か前に、母島・父島ですごい雨が降って、道路があちこちで陥没したり、山が動いたりしました。今山の動くのを防ぐためにコンクリートで止めていますね。あの時の雨は、土砂災害に入るんですよね。

（事務局）平成 9 年に大雨が降って、父母合わせて、5 か所陥没しました。

（参加者）今回の小笠原の 200 ミリ以上のと言うのが出ましたが、たいしたことなかったですね。

（事務局）平成 9 年の時はすごかったですが、その時はまだ、土砂災害警戒情報と言うのは制度としてなかったですので、当時今のような情報が発表されることはありませんでした。

（参加者）うちのお墓も水浸しになったということもあって、結構雨は降りますから、（津波と土砂を）一緒に考えたほうがいいと思います。

（参加者）前回保留になった要因の一つに、貴重な固有植物でムニンビャクダンがありますが、調査はどの程度行う予定なのか。

（事務局）資料の、（１）＊の２つ目３つ目ですが、「ビャクダン・コウモリ・ノスリ・アカガシラカラスバトなど専門家の意見を聞くべき」や「専門家の意見を聞かないと判断ができない」という意見が出ています。やはり自然環境上どうなのかという判断は、参加された方もわからないので、専門家の意見を聞いてくださいと意見が出ました。当時の資料では、ビャクダンの群生地や固有の植物のポイントは残っています。斜面地はモクマオウがほとんどですが、中に入ると固有種があります。どこまでそういう自然環境に配慮したものを作っていくのか。一点は村の段階で作ったほうがいいのは、全体的な範囲として、固有の植物の群生地はここにあるからそこは避けようとか、特に希少な植物はここにあるから避けようとか移植するのかとかいう議論はあると思いますが、全体的な範囲の中での傾向というのは一度村でも行っておいたほうがいいと思います。また、具体的なルートが出てきた場合の影響というのは、東京都が今母島の北進線でも行っているような、調査を行い専門家の意見を聞いてというのが、工事の進め方となっています。その中で自然への配慮を基にした、ルートの選定がされると思っていますので、環境調査をやらないということは思っていません。

（参加者）ある程度の、固有種、希少種がこのあたりにあるというのは、把握されていて、その資料もあるということですか。

（事務局）当時の資料はありますが、古いものですから、これからです。

（参加者）再度調査を行うということですか。

（事務局）ただ、全体的に多くの部分がモクマオウですから、また、昆虫については、保育園の裏の遊歩道を行う際に昆虫の調査も行い、ほとんど固有種は出てこなかった。

（参加者）基本的には、防災道路は必要だと思います。

（参加者）奥村と清瀬の低地に道路が１本しかないということもあり、防災道路は基本的には必要であろうと思います。では、それをどう進めるかと言うことですが、今専門家の意見を聞くということですが、北袋沢のトンネル工事の委員会も傍聴しましたが、他の環境問題の委員のメンバーがそのままなられていて、トンネルを整備することによ

る、地質、地形、水の流れ、それによって上にある植生や川筋の植生がどう変わるか、環境の変化が大きいので、そういう意味で専門家が適切に選ばれているか、今の専門家だけでは不十分ではないか。これは世界遺産の科学委員会でも意見していますが。特にトンネルを掘るときは、影響が大きいので。あと、景観についても景観についての専門家、たとえば東京都の方とか。あと、自然環境だけが問題にされていますが、釣浜の上のところは、海軍の設営隊の壕があるとか。もともと電信山と言ういろんな基地がある。そういう近代遺跡についての調査と評価がきちんと調査項目の中に入ったうえで、考えていただきたい。それが一つ。
もう一つは、そもそもの発端となった清瀬の袋小路と言う問題は解消されている。無理に都道を繋げるということでなく、奥村の低地を解消する道路と、都道をつなぐということを別に考えてはどうか。もし（現在の行文線終点と釣浜までを）都道をつなぐとしたら、迂回するのは大変な環境破壊になります。そこに貴重な生物がいるいないという問題ではなく、雨が降れば道路が川になって、人は歩けないような状況になる。どうしても都道でつなぎたいなら、今の都道の終点と高校の村道を橋でわたすという案もあるのでは。そのほうが、簡素化できる。

（事務局）専門家のあり方というところですが、実際に線形やルートが定める前に、自然系だけではなく、地質や景観等の専門家や、自然系でも動物・植物だけではなくと言うことでしょうか。

（参加者）スケジュールのことで、今年度中にまとめるということですが、

（事務局）まとめるというのは、前回の説明会でも、アンケートを取ってはどうかとか、協議会を作ったらどうかとか、意見がありました、村としては、前回と今回の意見を踏まえて、次の進め方をどうしようか、この 2 回で考えようと思っています。スケジュール自体もこだわっているわけではありませんので、次回までに進め方等説明できるようにしたいと思っています。

（参加者）前回の行文線の保留になってから 20 年たっています。今整備を行う意味をしっかりとしておかないといけない。

（事務局）もう一度改めて、前回の案は白紙にしながらも、高台の防災道路は村として必要であるとの前提で、その構造やルートはもう一度考えていきます。

（参加者）必要か必要でないかも含めて。

（事務局）それは、個々の意見としてお伺いします。前回も必要ないという方はいました。その発言の真意をお伺いし、考えていくこととしています。前回の意見では、まっ

たく道路自体をいらないという方もいましたし、必要ないがもし作るのであれば、最小限でと言う意見もありました。いろいろな意見がありました。

（参加者）東日本大震災や南海トラフも新しく出てきているわけですから、それを踏まえて、小笠原は改めて考えていく必要がある。

（事務局）きっかけは東日本大震災で、議会の総務委員会でも毎回取り上げられるようになりましたが、東京都に要望しても回答は、整備に当たっての村内合意を取り付けてからと言うのが回答ですので、まずはこういった村民説明会から皆さんの意見を聞いていこうということで、1回目2回目と開催している次第です。

（参加者）前回はどれくらい集まったんでしょうか。

（事務局）午前、午後で33名です。

（参加者）重複はいましたか。

（事務局）重複は1名です（2名でした）。資料もいつでもお配りし、説明いたしますので、声をおかけいただければと思います。本日はお忙しい中ありがとうございました。

〇午前の部
（参加者）午前中の戦跡の話は、どこになるでしょうか。

（事務局）電信山の話でした。

（参加者）電信山はありますが、奥村のルートの方にはないですよね。

（事務局）保育園の裏の遊歩道の脇に、壕があります（その他にもあります）。意見としては、近代遺跡としてのきちっとした調査・評価をしたうえで計画してほしいという意見でした。先ほど、現地調査中に出た、なるべく高いところにと言うのも意見としてお伺いしておきます。

（参加者）お願いします。コウモリとかアカガシラカラスバトとかの意見が出ていますが、もし道路作るなら、下に降りてきてしまうので、母島のフルーツロードのようにして、コウモリとかアカガシラカラスバトとかが行くように植えてしまった方がいいのでは。民家の被害が結構多いので。

（事務局）植樹帯があれば、あってもいいのではないかと思います。

（参加者）まだ、基本がどうなっているかわからない状況なので。

（事務局）それも意見としては、もう少し具体的に示してもらいたいということになるのかと。

（参加者）ある程度の案が出てこないと。

（事務局）ある程度の案がないと議論として進んでいかないと感じています。今後の進め方も、村の中と支庁とも相談して、1回目2回目の意見を入れながら、次のステップは、もう少し工夫して、説明会になるか、協議会になるか、考えていきたいと思います。

（参加者）小港のトンネルの件は、住民側への説明は無で、東京都が専門家に要請して、行ってしまったということで、道路説明会の時は住民を飛ばしているという意見が結構出ていましたので、そういう意味では、今回最初の段階から村民説明会を行っていることはとっても評価できることだと思います。

（事務局）過去の経緯もありますので、段階を踏みたいと思います。案が案になる前に皆さんにお示ししながら、皆さんにいろんな意見をいただいて、修正を加えていくという方法で、最終的に東京都がそれで再整備を行っていただければ、ぜひお願いしたいと思っている。

（参加者）もう一つ質問ですが、とりあえず釣浜から奥村側に抜けるということが決まった場合、現在の行文線で、幅が狭くなってきていて村道につながって学校に抜ける所は、あのままになるのか、それともあそこも都道扱いでちゃんと整備をして釣浜線につなげるようになるのか、どうでしょうか。

（事務局）午前中も同じような意見があって、新しいのを作るよりも今の道路を活かしてはどうかとの意見はいただきました。活かすとした時に村道を村道のままにするのか、都道に格上げするのかというのは、これからの話です。

（参加者）別に都道と都道の間に村道でも問題はないということですか。

（事務局）今も都道で終わって村道でつなぐということになっていますので、問題はないとは思いますが。

（参加者）今の状態は苦肉の策だから

（事務局）最終的につながるとすれば、道幅とか気にしなければ、都道として一つのル

ートになるのと思います。

（参加者）あそこはかなり狭いので、都道の最低規格の７ｍにすると職住の崖とか、公園とかあるので、そのあたりを考えるとそのままでよければ、そのままの方がいいのではと思い、質問しました。

（事務局）また、最終的に東京都と話していくことになりますが、すべて基本の７ｍでなければ都道ではないかというと、北進線はもっと狭いですし、巽道路も狭いです。

（参加者）この道路を整備したいということに、その必要性は村民はどう思っているのか、どんな感じなんでしょうか。

（事務局）その感じを知りたいと思い実施しています。いかがですか。

（参加者）私は必要だと思います。３．１１のとき奥村の旧高校に避難して、結局孤立しています。小中・高校の方に、その時は何もありませんでしたが、皆さんそちらにいて、物資もあるということで、どうしたらいいんだろうと思ったことがあったので、上でつながった道路がほしいと思いました。

（事務局）その中に、ただしとか、でもとかがあれば頂いておいて、村として作るという意識を持っていて、議員の皆さんも東日本大震災を見てから、毎回委員会で取り上げたのは、作るというスタンスだからです。

（参加者）村民の方はどうですか。

（事務局）こういう動きを始めたのが、前回と今回なので、まずは参加していただいている方の、感覚・感触を村としても知りたいということで始めました。前回の中でもそもそもいらないという方もいますし、意見としては概要として出しています。一方でほしいという方もいます。そこに自然環境に配慮してとか、ただし書きがつくと思います。今回と前回で皆さんの意見を受けて、次の進め方を考えたいと思います。
1 回目が三十数名、今回が午前、午後合せて 10 人に至っていませんので、まだまだ村が考えていることを知らない人も多くいると思いますので、ぜひ皆様からも発信していただきたいと思っています。村に来ていただければ、資料も用意していますし、説明もしますのでお声をおかけいただきたいと思います。

（参加者）うまくＰＲしてください。こういうことを考えているということがなかなか行きわたっていない。興味があっても時間がないとかいうこともあるので、まずは興味を引いてください。

（事務局）本日はお忙しい中、ありがとうございました。